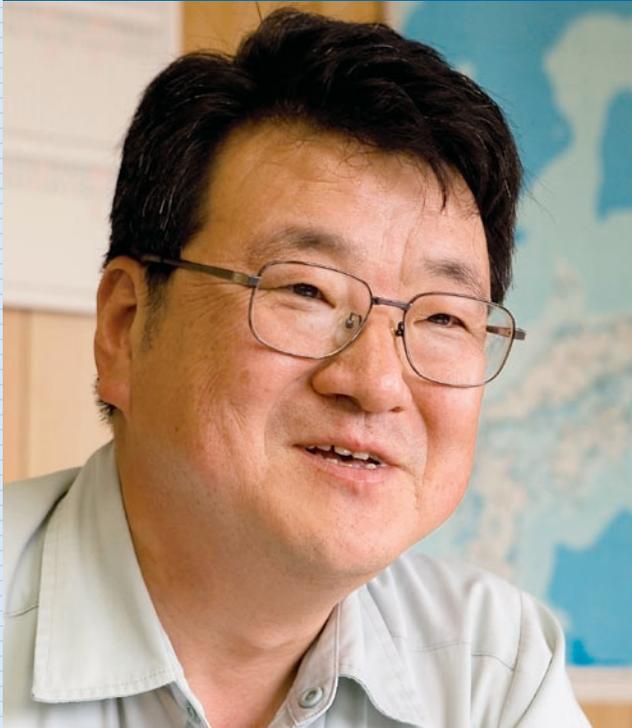


◎経営革新企業紹介

石村工業株式会社

石村 眞一 社長に聞く

プラント製造技術に メカトロ技術を付加し 新アイデアに果敢に取り組む 「挑戦企業」



▲石村眞一社長。自社製品を自ら運転する車に積みこみ、全国各地の見本市等でPRする。

御社が経営革新に取り組まれたきっかけは。

平成元年に新日鉄釜石製鉄所の高炉の稼働が停止になりました。それまで弊社は、製鉄所関係の設備修理を請け負っていたのですが、高炉が停まる数年前から何かほかのことを始めなければと考え、研究開発を進めていました。

平成4年にイクラ(粘性粒体)自動計量充填機の開発に成功しました。これに至る経緯は。

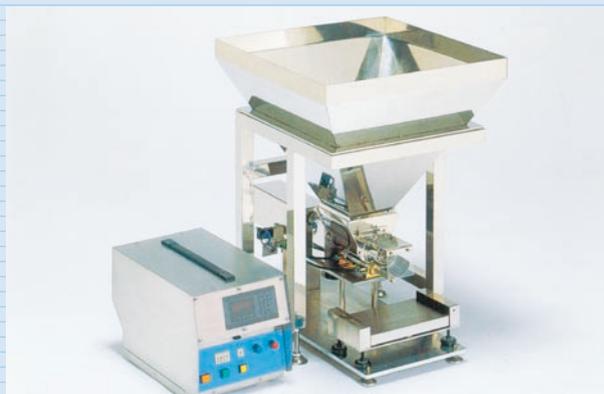
私が機械、専務の弟が電子制御が得意でした。二人が協力すればメカトロ製品が作れるはずだと考え、新しい分野に進出しました。しかしなかなかいいテーマが見つかりません。最初は鮭のエラ

を取る機械に取り組んでいたのですが、ある日、青年会議所の飲み会で、たまたま隣同士になった水産加工業の方に「イクラを量る機械が欲しいんだ」と相談されたのです。これはいいテーマだと思い、当時、地元の製造業の2代目たちでつくっていた協同組合テクノポート釜石のテーマとして採り上げ、当社が中心になって開発に取りかかりました。

開発は順調に進んだのですか。

イクラの計量の現場は、女性従業員がずらりと並んで、1パックずつ手作業で行われていました。それを機械化することで省力とスピードアップ、衛生面の向上を図る。当時は0-157の問題が取りざたされていた時期でした。

イクラは値段が高いので、求められたのは、プラス2グラムの精度でした。イクラは3粒で約1グラム。つまり6粒の増加までは許される。マイナスは絶対にダメ。しかもイクラは粘性をもっているのです。なかなかうまくいきませんでした。弟は盛岡に安いアパートを借り、しょっちゅう泊り込んだりしながら、県工業技術センターに通って制御の勉強をしました。地域資源等活用型起業化事業(目的開発)補助金を活用して、試行錯誤を繰り返しながら最終的に試作機が完成したのは平成4年。ホッパーに入れたイクラを特殊なスクリーンで送り出し、数秒で目的の重さに計量充填されると自動停止するという仕組みでした。イクラを傷つせず、食品に手を触れないために雑菌がつかえません。仕組みも簡単で、洗浄が楽にでき、事務机程度の作業台があれば設置できるコンパクトなものでした。ニーズがあるかどうか確かめるために、試作機を車に積んで北海道をまわって市場調査を行い、ニーズを確認できたところから製品化に踏み切ったわけです。



▲イクラの自動計量充填機。誤差は2g以内



▲惣菜用の計量充填機。用途にあわせたスネークスクリューを開発研究中

売れ行きは順調でしたか。

商社が新聞記事を見て一挙に10台ほど仕入れてくれたことがありました。アラスカにも1台売られています。アラスカからはインターネットによる問い合わせが多いので、これからは国内よりもそちらの方で売れていきそうな感じをもっています。最近是个食の時代です。大手スーパーに納入している業者さんには、小分けしたバックを一晩に6000個も用意しなければいけないところもあり、そういうところが必死になって弊社の製品を探し出してきました。

御社の現在の主力商品は。



▲薪の併用が可能、岩手らしいオリジナルデザインも好評なペレットストーブ。優しいあたたかさを社長自ら事務所で実感

地球にやさしいペレット・薪兼用ストーブ「クラフトマン」の販売が好調です。県工業技術センターのご紹介があって開発に取り組んだ製品です。イクラ計量器の時には商社や人まかせの販売だったので、それを反省し、クラフトマンの販売では私がセールスマンとして各地をまわっています。

御社の一番の強みは。

まず基本となるものづくりの技術があり、そこに新しい技術を付加できるということ。そして、その際に、これまでの人脈から県工業技術センター、岩手大学、水産技術センターさんなどを気軽に利用できるということ。何か困ったことが出てきたときに電話一本で相談できるのは、とてもありがたく周囲のみなさんに感謝しております。

今後の目標、展開は。

やはり優れた商品をつくって、この釜石の地から全国に売り出すということですね。これまでいろんなことに挑戦し、大型構造物では失敗をしたこともあるんですよ（笑）。大型構造物の路線は将来

的に中国に勝てない。これからは小さくて付加価値のあるものに挑戦していきます。おかげさまで海藻塩蔵装置やワカメ刈り取り機、自動海藻ボイル装置といった製品の開発依頼があり、すでに開発を終了したものもあります。お惣菜のご三家と呼ばれるきんぴらごぼろ、ひじき、マカロニサラダの惣菜自動計量充填機の開発も継続中です。苦手だった販売のノウハウも蓄積されてきて、最近「営業のしゃべり方がうまくなってきたね」と冷やかされています（笑）。

企業紹介 DATA

石村工業株式会社

所在地 釜石市大平町 4-2-1

電話 0193-22-3641

<http://www.rnac.ne.jp/~ishimura/>

代表者 石村眞一

従業員 16名

事業内容 省力化機械の開発製造、鋼構造物、製缶（プラント）製造、グラブ・ポリバケツ製造、天井・橋型クレーン製作、ステンレス・アルミ加工等

沿革

- 昭和 34年 12月 設立。
- 新日鉄釜石製鉄所の設備修理を請け負う
- 平成 元年 3月 新日鉄釜石製鉄所の高炉停止。このころからマイコン制御機器関係の開発に取り組む
- 平成 4年 3月 イクラ（粘性粒体）自動計量充填機の開発に成功
- 平成 8年 2月 アワビの養殖装置「潜降浮上型人工海底」を共同製造
- 平成 9年 2月 川崎重工から車両運搬用ホイスタプル・カーデッキのパネル製造を共同受注。
釜石港の公共ふ頭遊休地を活用して建造
- 平成 10年 10月 イクラ洗浄殺菌装置を開発
- 平成 12年 4月 経営革新計画の承認を得る
- 平成 15年 9月 ペレット・薪兼用ストーブ「クラフトマン」を開発、販売開始
- 平成 17年 12月 海藻塩蔵装置を開発
- 平成 18年 惣菜自動計量充填機を継続開発中。ワカメ刈り取り機、自動海藻ボイル装置を開発